

Bibliophiles

ビブリオファイル No.8(2019年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館



『三体』 劉慈欣 (リウ・ツーシン)

権威あるSFの「ヒューゴー賞」は、これまで日本人作家が取ったことはありません。それどころかアジア人に広げても取ってなかったのですが、2015年にアジアで初めてこの本が受賞したのです。中国で2100万部以上、英語版でも100万部以上売れたこのベストセラー本、果して日本でもヒットするでしょうか？

ナノテク素材の研究者である汪(ワン)はある会議に招集され、世界的な科学者が次々に自殺している事実を告げられます。その陰に見え隠れする学術団体とは？

『知識ゼロからの 畜産入門』

八木宏典

人間の味覚は従来から5つあるとされてきました(甘味・酸味・塩味・苦味・うま味)が、「第6の味覚」として「脂味」が注目されています。牛の霜降り肉を食べた時の、あのあぶらの味ですね。実際、牛肉の格付けは15段階あるのですが、あぶらの乗った霜降り肉に有利な評価方法を取っているようです。でも格付けにとらわれずに「赤身肉の方が好き」という人もいますよね。本書は、こうした畜産の全てを基本知識から網羅した入門書です。

『まなの本棚』

芦田愛菜

日本ドラマ史上、最年少(6歳)で主役を務め「天才子役」として名高い芦田愛菜。TVでよく見えますよね。彼女は読書家としても以前から有名でしたが、このたび読書をテーマにしたこの本を出しました。内容は、みずからの読書体験やおすすめの本、また『探偵ガリレオ』の湯川学など、お気に入りの登場人物などを取り上げています。さらにノーベル賞の山中伸弥や作家の辻村深月とのスペシャル対談も収録。「本好き」になってみたい人は必読ですね。

『浜村渚の計算ノート』

青柳 碧人

作者は以前、学習塾で働いていましたが、ある生徒から「数学なんか勉強して何の意味がある?」と尋ねられて答えに困り、それなら自分なりの答えを見つけてみようと思案したのが本書です。筆者のデビュー作でもあります。数学テロ組織「黒い三角定規」と闘う天才中学生・浜村渚を描いた、新感覚の数学ミステリーです。1章・2章・・・を \log_{10}, \log_{100} と記したり、3節・4節は $\sqrt{9}, \sqrt{16}$ と書いたりなどのこだわりも。全11巻、生徒の選定です。

『ルパンの娘』 横関大

「泥棒が愛したのは、警官でした。」というキャッチフレーズでただ今放映中のテレビドラマ(深田恭子主演)の、原作の同名小説です。うたい文句の通り、泥棒一家の娘が警察官一家の息子と婚約する、というハチャメチャな設定のエンタメ小説です。この本を選んでくれたのは、2年女子の選定委員。コメントです。「図書館に入れようかなって思ったら、まさかのドラマ化されました。」

『A型自分の説明書』ほか Jamais Jamais

「人がイライラし始めることにイライラする。」「大人になりたくない! って真剣に悩んだ。」・・・これって何型の性格かわかりましたか? 実はB型でした。このシリーズは血液型別の「O型トリセツ」となっています。以下は、選んだ図書委員のコメントです。「血液型あるあるの世界へようこそ。一人でも皆でも楽しめます。」(2年女子)

『はたらく細胞 BLACK』 初嘉屋一生(作画)・清水茜(監修)

大人気の医学マンガ『はたらく細胞』のスピノフ作品です。今回は、喫煙やアルコール、不規則な食事や病気など「からだに悪い」何かをめぐって血液内の細胞たちがバトルを繰り広げます。作画も『はたらく細胞』よりも劇画調で、シリアスな大人のマンガの雰囲気があります。

俳優・三船敏郎の本を2冊購入しました!

三船敏郎、と言っても君たちにはピンと来ないかも知れませんが(娘の美佳氏ならTVで知ってるかもですが)あの日本を代表する映画監督の一人・黒澤明が「めったに俳優には惚れない私も、三船には参った。」とほれ込んだ俳優で、『羅生門』でヴェネツィアの最高賞を取るなど、黒澤が数多くの国際的

な映画賞を受けるのに貢献しました。また彼が主演した『用心棒』がイタリア人監督によってリメイクされるなど、海外の映画人から多大にリスペクトされているのです。そんな「世界のミフネ」の映画を詳しく解説した『三船敏郎の映画史』と、ゴシップなどの人間的側面を描いた『サムライ 評伝 三船敏郎』をどうぞ。



『化学のしごと図鑑』近畿化学協会編

化学の先生方が選んだ本です。「化学を大学で専攻しても研究者になるのは厳しいしなあ・・・」とお悩みのあなた、ぜひ手にとってみて下さい。この本は研究職だけでなく、例えばタイヤの製造現場で専用の薬品を加えてゴムの特性を出す、といった色々な仕事(マスコミや公務員のページも!)の具体例が豊富に解説されていますよ。

今号のひとこと

Tristo e quel discepolo
che non avanza il suo maestro.

師匠を超えない弟子は、恥ずかしいものだ。

レオナルド・ダ・ヴィンチ (1452-1519)

『フォースター手稿』より。今年没後500年の節目を迎える、ルネサンスの巨人です。彼は絵画の分野では師匠のヴェロッキオを完全にしのぎ、絵画以外にも音楽や建築、科学など多くの分野で業績を残した「万能の天才」でした。図書館にも『レオナルド・ダ・ヴィンチを旅する』(池上英洋 監修)が入りました。今も彼の生家が残るヴィンチ村の写真から始まって、画家がたどった足取りや名画の数々を紹介します。大型本なので、絵の細部がとても見やすいですよ。